



日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第129回定期演奏会

1993年7月9日(金)

■ 午後7時開演(午後6時半開場)
■ 津田ホール(JR千駄ヶ谷駅下車)

主催	日本音楽集団
協賛	青森県
企画・プロデュース	前田文男
制作協力	伊藤由美(MEWS)

燃えさかる炎の中で 僕らは夢をみていた。
懐かしい風景の夢を。
天に届いた炎が星にかわる頃 僕らはまた旅に出るだろう。
はるか遠い世界に 心通じあう友を求めて。

旅人よ、君はどこから来て、どこに行こうというのだ。今ここで祭が始まろうとしているのに。大地のメッセージを一緒に聞かないか。

どうぞ祭の空間を存分にお楽しみ下さい。なお津軽三味線の山上進様、数々の配慮をしていただいた青森県産業課の菊池様、東京青森県人会の皆様そして企画の段階からお世話になりました(株)MEWSの伊藤由美様、各関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

プロデューサー 前田文男

プログラム

一、まつり

構成 藤舎呂船

[笛] 藤崎重康、西原貴子

[打楽器] 尾崎太一、西川啓光、黒坂昇、前田文男、望月太喜之丞

二、発散と収束と (初演)

作曲 秋岸寛久

[笛] 西原貴子 [尺八] 水川寿也 [胡弓] 畦地慶司

[三味線] 太田幸子 [二十絃] 山田明美 [十七絃] 宮越圭子

[打楽器] 尾崎太一、西川啓光

三、南米のフォルクローレ

編曲 角田圭伊悟

[笛] 藤崎重康 [尺八] 三橋貴風、水川寿也

[箏] I 吉村七重 II 山田明美 III 大畠菜穂子

[十七絃] 宮越圭子

[ボンボ] 黒坂昇

[パーカッション] 前田文男

休憩

四、ねぶた祭から津軽民謡まで

構成 黒坂昇

津軽三味線「即興八甲田」

独 奏 山上進 (客演)

津軽三味線「曲弾」

二重奏 山上進
坂口美香

「十三の砂山」

尺八独奏 水川寿也

お山参詣「登山ばやし」

山上進

「下山ばやし」

黒坂昇

ねぶた囃子 [笛] 山上進、藤崎重康、西原貴子 [はねと]

東京青森県人会有志

[手振り鉦] 尾崎太一、前田文男

[太鼓] 黒坂昇、西川啓光、クリストファー・ハーディ (友情出演)

まつり

日本には今日でも色々な形で「まつり」が各地に伝えられています。音楽としては日本固有の笛と打楽器との組み合わせのものが奏されています。また舞台芸術としての芝居の音楽にも独特に発達してきた笛と打楽器との組み合わせになる「まつり」の音楽があります。この曲はそれらの面白さを素材として構成し「まつり」と名付けました。グループ『星群』がSMF(Jenes-es Musical es de France)演奏家交流の第11回目としてのフランス公演を行った際初演され、フランス各地において好評を博しました。

藤舎呂船

発散と収束と

祭りの前後の発散し収束するエネルギーを、音楽のエネルギーに対応させて曲を書きました。しかし具体的な祭りのイメージとは特に関係がありません。音の強弱や、リズム等の低水準の(「音自体のエネルギー」に近いという意味です)エネルギー感だけでなく、使用している音列等も発散と収束にしたがって変化していきます。全体的な響きの変化にもご注目(耳?)ください。

秋岸寛久

南米のフォルクローレ

インカ民族の末裔といわれているペルー、ボリビアの国境の山岳地帯に住むインディオはチチカカ湖のほとりに多くの部落を持ち、秋の収穫を祝う祭りは一週間も続けられます。

1. 花祭り

1950年代のはじめごろヒットしたアルゼンチンのギター奏者エドムンド・サルディバルの作詞作曲で、この国の北部のカーニバルのリズムがつけられています。

2. 風とケーナのロマンス

ボリビア生れのホセ・ラミレス・トーレスというギター奏者の作品で、ロマンに溢れている名曲です。

3. あなたの影になりたい

ロマンチックな題名のベネズエラの佳曲で3拍子で演奏されます。不思議とロシア民謡に通じるものがあります。

4. ヤービの風

マチュピチュ遺蹟を連想させるような淋しいメロディーが不思議な雰囲気をつくっています。

5. カスカーダ

パラグアイのハープ奏者ディグノ・ガルシアの作品で独特の3連音符がラテン音楽の粋を感じさせます。

6. 滅び行くインディオの哀歌

曲名どおり白人に征服されたインディオをテーマにした、最も悲しい曲想をもった曲。

7. コンドルは飛んで行く

ペルーの民謡で、1977年三橋貴風企画・構成のフォルクローレコンサートでの大成功以来、集団のアンコール曲となりました。

前田文男

ねぶたから津軽民謡まで

起源については定説はないが、平安時代、蝦夷地平定のため津軽に来た征夷大將軍坂上田村麻呂が、容易に屈しない蝦夷の人々をおびき出すために人形を作ったのが、ねぶたの始まりとされています。

また、お山参詣は、津軽平野の中央にある津軽富士(岩木山)へ登山する秋の重要な年中行事です。上る際に謡われるのが、「登りばやし」。下る際に謡われるのが、「下りばやし」で、のぼりを立て、笛・太鼓の音に合わせて登ります。

黒坂昇構成による、ねぶた祭は青森より長胴大太鼓を輸送して、又ゲストに津軽三味線の山上進氏を迎え、その土の匂いをもったエスプリに溢れる、津軽弁と笛、三味線は聞く人の心を引き付けて離さないでしょう。

津軽の厳しい冬から、短い夏を迎える歓びと豊穡への願いがねぶた祭として爆発する。青森県人会の方々「はねと」も加わります。どうぞ席より立って一緒にはねてみませんか。

前田文男

山上進プロフィール

昭和32年青森県に生まれる

10代の頃から、津軽三味線奏者として才覚を現わし、横笛、尺八と芸域をひろげ、近年は、古典楽器およびシンセサイザー等と共演するなど、津軽三味線の伝統を守りつつ新しい分野を見い出すなど活動している。

〔おもな出演歴〕

第7回、第10回ヤマハ世界歌謡祭に参加。

林英哲コンサートにて笛、三味線で共演。

伊奈かつぺいコンサートで一人オーケストラ演奏。(三味線、笛、ギター、尺八)

長谷部日出雄 第1回監督作品映画「夢の祭り」で津軽三味線指導および音出演。

その他多数

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437